



共に創る掛川
松浦昌巳

掛川市の防災・減災は

Q 各地で地震や豪雨災害が頻発している。掛川市主催の土砂災害や広域避難訓練の様子を広く他地区の市民にも見てもらう工夫ができないか伺う。

A 訓練当日は、それぞれの地区で、地域の実情に応じた訓練を行っているため、他地区の訓練を見学することが難しい状況です。しかし、モデル地区の先進的な訓練は、それぞれの自主防災会を運営していくために大変有意義であるため、今後、視察の案内や実施内容を研修会で報告するなど、積極的に新しい視点を地域の訓練に取り入れられるように努めます。

視察の案内や実施内容を研修会で報告する

消防団のあり方は

Q これまで消防団員の活動は火災予防や消火活動が中心だったが、今後はさまざまな災害に対応する災害知識と防災スキルを身に付けて、災害対応能力の向上を推進するべきではないか。

A 東日本大震災以降、土砂災害や洪水災害などが各地で数多く発生していることから、あらゆる災害に対応できるよう、倒壊家屋からの救助等の実践的な訓練を取り入れています。また、団員のスキルアップのため、県消防学校で現場指揮や各種災害対策、安全管理などの研修を受け、これら教育や訓練で得た知識を活かし、地域住民への訓練指導も行っています。今後もこれまで以上に災害対応が可能な消防団づくりに向け、必要な訓練を取り入れ、団員の対応能力を向上させていきます。

団員の対応能力を向上させていく

Q 国定住居圏構想のモデル定住圏の指定と生涯学習都市宣言で市は飛躍した。市庁舎は、市民住民主体の市政の拠点づくり、二十一世紀の自治体経営モデルであるか。

市民の誇りとなる建築である

A 市庁舎は、住民・市民主体の市政を推進する場、市民が生涯学習にふれあう場などを基本理念としています。生涯学習テラスは、「協働のまちづくり」の象徴として、市民と行政の会議の場としてだけでなく、市民と市民が気軽に意見交換が行われる場としても利用されています。また、市民向けの各種展示やイベント、園児の遠足や小中学生の見学の場所となるなど、大人から子どもまで、庁舎がふれあいの場として利用されています。

「生物資源・水質保全・市役所」は生涯学習の総本山か

Q 県の補助金は、29年度で打ち切りとなった。30年度は5市1町で負担をし、緊急対応した。31年度はどのようにされるか伺う。当事者は危殆に瀕する。

障がい児・者の歯科外来診療は

A 平成31年度においても今年度と同様の内容で事業を行い、5市1町で予算措置をする予定です。

今年と同様の内容で事業を行う

【その他の質問事項】

・掛川市自治基本条例と協働のまちづくりについて



倒壊家屋救出訓練



生涯学習の総本山・掛川市役所本庁舎

用され、市民の誇りとなる建築となっていると考えます。